

平成 29 年度

関東大学テニスリーグ冊子

目 次

頁

2～16：関東大学テニスリーグ規約

関東大学テニスリーグ注意事項

- 2. 出場資格
- 3. チーム編成
- 4. 組合せ
- 5. 入替戦
- 6. 試合形式
- 7. 使用球
- 8. 審判
- 9. コートの使用
- 10. 試合開始時刻
- 11. オーダー交換
- 12. 選手出場順位
- 13. オーダー規約
- 14. 順位決定
- 15. 学連役員の派遣
- 16. その他
- ・ 前書き
- ・ 選手
- ・ コートレフェリー・質疑権所有者
- ・ 審判
- ・ ボールパーソン
- ・ ベンチコーチ
- ・ 応援
- ・ ペナルティー・人数不足
- ・ 使用コート
- ・ 使用ボール
- ・ 試合開始時刻
- ・ オーダー交換
- ・ メディカルタイムアウト(MTO)
- ・ トイレットブレーク
- ・ 雨天の際の処置
- ・ 日没・水没の際の処置
- ・ 主将・主務の打ち合わせ事項
- ・ お問い合わせ先
- ・ コートレフェリーの報告方法

関東大学テニスリーグ規約

平成 28 年 7 月 19 日改訂

1. 日程

原則として開始時期は前年度 3 月末迄に発表する。

2. 出場資格

- ・関東学生テニス連盟(以下、本連盟)に登録している全ての選手が出場資格を有するものとする。
- ・但し、各個人出場(試合に出ていなくても学校単位での出場扱いになる)を 1 年度につき 1 回までとし、4 年制の大学の場合は最高 4 回まで、医学系学部生、短期大学生の場合はそれぞれ 6, 2 回まで出場できる。
- ・転校や再入学をした者については、移籍前の地区でリーグ戦が開催された場合、移籍後同年度内に関東地区で開催されるリーグ戦の試合に出場することができない(移籍前の地区でリーグ戦が開催されていない場合、移籍後同年度内に関東地区で開催されるリーグ戦の試合に出場することができる)。

3. チーム編成

各チームコートレフェリー、質疑権所有者、トレーナー各 1 名以内(選手兼任可)の在籍が可能。

4. 組合せ

男子第 1~6 部、女子第 1~4 部の組合せ及び対戦順序は、前年度順位に基づきそれぞれ次の表に定めるものとする。

第 1 戰	第 1 位—第 6 位	第 2 位—第 5 位	第 3 位—第 4 位
第 2 戰	第 1 位—第 5 位	第 2 位—第 4 位	第 3 位—第 6 位
第 3 戰	第 1 位—第 4 位	第 2 位—第 3 位	第 5 位—第 6 位
第 4 戰	第 1 位—第 3 位	第 2 位—第 6 位	第 4 位—第 5 位
第 5 戰	第 1 位—第 2 位	第 3 位—第 5 位	第 4 位—第 6 位

男子第 7 部、女子第 5 部は適宜本連盟がブロックリーグ及びトーナメントを編成するものとする。

5. 入替戦

男子第 1~6 部、女子第 1~4 部の第 5・6 位校は各々次の部に於ける第 1・2 位校と入替戦を行なう。その場合の組合せは上部 5 位校対下部第 2 位校、上部 6 位校対下部第 1 位校とする。

6. 試合形式(2015/5/16 改定)

- ・各試合形式は全てベスト・オブ・3 タイブレークセットマッチとする。
- ・男子の試合は 1 対戦のポイント数を複 3、単 6 の合計 9 ポイントとし、ダブルス第 3 位から順次第 1 位、その後シングルス第 6 位から順次第 1 位の順序で試合に入る。
- ・女子の試合は 1 対戦のポイント数を複 2、単 5 の合計 7 ポイントとし、ダブルス第 2 位から順次第 1 位、その後シングルス第 5 位から順次第 1 位の順序で試合に入る。
- ・原則として単複同日を行い、ダブルスとシングルスとの間のレストは最大 45 分までを認める(シングルスのオーダー交換終了後から)。

7. 使用球

試合球は DUNLOP FORT とし、原則としてボールチェンジは 9-11-11、2 ボール回しで行う。

8. 審判

原則として全試合 2 審制で行う。主審を出す順位は以下の通りである。

男子	コート選択権所有校	ダブルス	第 3 位, 第 1 位
		シングルス	第 5 位, 第 3 位, 第 1 位
相手校		ダブルス	第 2 位
		シングルス	第 6 位, 第 4 位, 第 2 位
女子	コート選択権所有校	ダブルス	第 1 位
		シングルス	第 5 位, 第 3 位, 第 1 位
相手校		ダブルス	第 2 位
		シングルス	第 4 位, 第 2 位

副審を出す順位は主審を出す順位の逆とする。

なお、入替戦の審判については、リーグ最終戦が終了した時点の 3 位、4 位校から入替の会場への派遣を義務とする。

例) 1 部校 3 位、4 位・・・1 部校下位 2 部校上位入替戦

2 部校 3 位、4 位・・・2 部校下位 3 部校上位入替戦

※3 位、4 位の各大学は両入替戦に必要人数を派遣し、主審副審は同大学で行わないようにし、交互に入るようとする。

9. コートの使用

- ・原則としてコート選択権所有校又は本連盟の指定するコートを使用するものとする。
- ・コート選択権所有校は大会前に本連盟が決定し、使用コートはコート選択権所有校が責任をもって手配しなければならない。サーフェスは問わないが、使用面数は原則として最低 3 面とする。但し、使用コート全て同じサーフェスである必要がある。
- ・入替戦によって替わった部もこの一環とする。
- ・入替戦は上位校に従うものとする。
- ・この原則に基づいて試合を行えない場合は幹事会の承認を求める。

10. 試合開始時刻

原則としてダブルスの開始時刻を午前 9 時とする。

11. オーダー交換

ダブルスのオーダー交換は原則として試合開始時刻の 10 分前(通常原則通りなら午前 8:50)に行う。

シングルスのオーダー交換は原則としてダブルスの試合の終了後、即座に行う。

12. 選手出場順位 (平成 29 年 8 月 11 日改訂)

(1) シングルス

(1) シングルス

①前年度全日本テニスシングルスランキングプレーヤー(60 位以内。同年度関東学生テニストーナメント大会終了時に於ける財団法人日本テニス協会発表のランキング)

②前年度全日本テニス選手権大会シングルス出場者

同年度全日本学生テニスシングルスランキングプレーヤー(10 位以内。同年度関東学生テニストーナメント大会終了直後に全日本学生テニス連盟発表のランキング)

③前年度全日本テニス選手権予選大会シングルス出場者

同年度全日本学生テニス選手権大会シングルス出場者

前年度全日本学生室内テニス選手権大会シングルス出場者

④前年度関東学生新進テニス選手権大会シングルス本戦出場者

同年度関東学生テニストーナメント大会シングルス本戦出場者

同年度関東学生テニス選手権大会シングルス本戦出場者

- (3)第2戦以降のオーダーは全試合基本オーダーに基づき、1人の選手につき同等の資格を有する前後1つの順位の選手との入れ替わりを認める。即ち2段階以上順位の異なる者が逆になつてはならない。
- (4)同等の資格を有する選手の順位に関しては、比較する2人の選手が初めて同時に出場したときのオーダーを基準とする。
- (5)第2戦以降新たに選手を入れる場合、入る場所は(2)に従い、新しく入った選手を除いた残りのメンバーの中で(3)及び(4)に沿つた移動が可能である。
- (6)単複2種目で同じ選手が2回出場することはできるが、同じ種目に1人の選手が2回以上出場することはできない。
- (7)ダブルスのオーダーもシングルスと同様に考える。但し、組む選手のペアを変えた場合はこれを全く新しいペアとして扱う。
- (8)人数不足の際は順位の高い方から選手を入れていく。
- (9) **入替戦のオーダーは、それまで行った第1戦～最終戦までのオーダー順位と関係がある。**

14.順位決定

- (1)勝率の高い方を上位とする。
- (2)同勝率校が複数になった場合、
 - ①同勝率校同士の直接対戦結果の勝者を上位とする。
 - ②上記①で解決できなかつた場合は下記とする。
 - I. 総勝ちポイント数の多い大学を上位とする。これによりついた順位の中でまだ同位校があれば①へ戻る。それでも尚且決着がつかない場合はIIを適用する。
 - II. 総取得セット数の多い大学を上位とする。これによりついた順位の中でまだ同位校があれば①へ戻る。それでも尚且決着がつかない場合はIIIを適用する。
 - III. 取得ゲーム数の多い大学を上位とする。これによりついた順位の中でまだ同位校があれば①へ戻る。それでも尚且決着がつかない場合はIVを適用する。
 - IV. 以上によつても尚且順位が決まらぬ場合は幹事会の決定に基づき再試合を行なう。
- (3)入替戦後の順位は、対戦した大学同士の順位のみが互いに入れ替わるものとする。

15.学連役員の派遣

男女1、2部校の対戦に関しては、各校のコートレフェリーに加え、学連役員がコートレフェリーに入る。式次第に関しても、学連役員が行う。入れ替え戦に関しては、1-2部校と2-3部校の対戦に学連役員をコートレフェリーとして派遣する。

16.その他

- 1部校は原則に則らずに進行する場合があり、その際は事前に別記して公表する。
- 細部に渡る取り決めは対戦校同士の話し合いにより変更することを可能とする。
- 本大会に於ける詳細事項は「関東大学テニスリーグ冊子」に記載する。

関東大学テニスリーグ注意事項

平成 28 年 7 月 19 日改訂

(前書き)

本年度関東大学テニスリーグは、本注意事項及び「JTA テニスルールブック 2017」に基づいて行う(中には幾つか内容の異なる事項もあるが、それらは全てリーグ戦特別ルールとし、本注意事項の内容を優先する)。

リーグに関わる全ての部員は「JTA テニスルールブック 2017」と本注意事項を熟読して、完璧に頭に入れてから試合に臨むこと。試合をするにあたって各校硬式庭球部員一人一人のルールの把握を徹底しておくこと。

ペナルティーは選手を無意味に罰するものではなく、スポーツマンシップに則った試合を円滑に行う為のものである。

注：あくまでもテニスの試合で決着をつけるものであって、ルール等を悪用しないこと。また学連に問い合わせてきた内容を、大学名・質問者の名前とともにノートに記録しておき、ルールの悪用をしていると判断した場合は学連より連絡する場合もあります。最悪、コートレフェリー・質疑権所有者の資格を剥奪する場合もあります。

★選手

- 選手は、主審の判定に対する質疑をすることはできるが、質疑をすることによって事実問題の判定が覆ることはない(クレーコートでの試合に於いて BMI を要求した場合を除く)。
- 選手は、コートレフェリーに直接質疑することはできない。また、選手自身がコートレフェリーを直接呼ぶことはできないので、コートレフェリーを呼びたい場合は選手が主審を通して呼んでもらうこと。
- 選手への飲み物等物資の持ち込みは必ず相手校のコートレフェリーを介すこと。これは即ち、試合中にコート内部へ物資を持ち込むことは応援、ベンチコーチ、選手の何れも許されていないということである。

★服装の変更について（平成 29 年 8 月 11 日）

- 女子のショーツについては「JTA TENNIS RULE BOOK 2017」に準ずるものとする。

★コートレフェリー・質疑権所有者

- 本年度ルール・審判講習会に出席した者のみがコートレフェリー・質疑権所有者の資格を得ることができる。
- コートレフェリー・質疑権所有者は原則として 2~4 年生が担当する(人数不足等止むを得ない事情で 2~4 年生のコートレフェリー・質疑権所有者が出来ない場合のみ 1 年生がコートレフェリー・質疑権所有者を担うことを認める)。

試合当日は事前に配布されたネームカードを身につけること。事前に配布されたネームカードを紛失、或いは忘れた等の理由で試合当日に身につけることができない場合、その日はその者がコートレフェリー・質疑権所有者になることはできない。

コートレフェリー・質疑権所有者が試合に入る場合は、事前に登録した委託人に権利を委託することができる。委託人も同様にネームカードを身に付けること。コートレフェリー・質疑権所有者の試合が終了した時点で権利は元の者に戻る。委託人に委託できない場合、その試合中コートレフェリー・質疑権所有者は不在となる。

※男子と女子は別々として考える。人数不足の為男子（または女子）が女子（または男子）のコートレフェリー・質疑権を担当する事はできない。

- コートレフェリー・質疑権所有者の責務

打ち合わせ会議で説明したとおり、各大学のコートレフェリーや質疑件所有者には、様々な仕事が与えられる。もし、これらを理解していない又は責務を果たしていないと学連が判断した場合1回目は警告、2回目は、当該大学の一部の資格者または全員の資格を剥奪する。

- コートレフェリー及び質疑権所有者はその対戦中で交代しても構わないが、相手のコートレフェリーか質疑権所有者に交代することを伝えてからにすること。また、自校または相手にペナルティーや警告を出している場合はその情報を引き継がなくてはならない。

コートレフェリーの役割

- コートレフェリーには、常に中立な立場で試合進行を見届ける責務がある。両校でコートレフェリーを出し合うことになるが、お互い客観的且つフェアに問題対処に取り組まなければならない。
- また、コートレフェリーはダブルス試合開始時から当日の対戦(全試合)が終了するまで、常に相手校側の陣地にいなければならない。

<コートレフェリーの仕事>

- MTO, トイレットブレークに対応する(1分ごとに選手に伝える。)
- ベンチコーチ登録名簿の確認
- 選手への物資の供給をする
- 試合中に起きた法的問題に対する解釈に決定を下す
- 必要があればコード違反者にペナルティーを科す
- セルフジャッジの試合に於いてロービングアンパイアとして働く
- オーダー、試合結果を学連に報告する

注：物資の供給はエンドチェンジ間に限る。

注：法的問題が発生した際の事実確認は全てコートレフェリーと主審とのやりとりのみによって行う(選手やベンチコーチとは一切話さない)。また、コートレフェリーが質問し、主審がそれに答える形で事実確認を行うこと。

注：両校のコートレフェリー同士の話し合いに於いて折り合いがつかなくなった場合は、必ず関東学生テニス連盟役員(以後、学連)に連絡すること。その際、必ずスピーカーフォンにして両者が話せるようにすること。
また、試合中に問題が発生し、折り合いがつかなくなった場合は、その試合を中断してから連絡すること。

注：コートレフェリーは頻繁に学連と連絡を取り合うことになるので、対戦外でも常時携帯電話を所持すること。

質疑権所有者の役割

- 質疑権所有者は、大学を代表してコートレフェリーに質疑する権利をもった唯一の存在である。質疑権所有者以外がコートレフェリーに質疑することはできない。

注：質疑権

レフェリー(学連や各大学のレフェリー)にルールに関する質疑が出来るのは、質疑権所有者のみである。質疑権所有者以外の各校主将、部員、監督、OB等は一切質疑をすることができない。これに反した場合は、1回目は当該行為に警告を出し、2回目以降はペナルティーを科す。尚、このペナルティーは本年度リーグを通して累加性とする。

＜質疑権所有者の仕事＞

- ・ オーダー、審判の判定や決定、選手のプレー、相手校の応援等に対するコートレフェリーへの質疑
- ・ コートレフェリーの下した法的解釈に対する学連への提訴
- ・ 質疑権所有者は法的問題に対する主審とコートレフェリーの事実確認を聞くことが出来る
(ただし、質疑権所有者がその問題に対して質疑できるのはコートレフェリーに限る)

注：質疑権所有者は問題が発生した際に、当該コートの自校選手・ベンチコーチと会話し、コートレフェリーに対して代弁することができる(但し、事実確認以外の内容を喋ったとコートレフェリーにより判断された場合は、直ちに会話を終了しなければならない)。

注：コートレフェリーに対して質疑権所有者が可能な行為は“質疑”のみに限定され、コートレフェリーが決定を下した瞬間に質疑できる機会は終了する。

※試合に於いて問題が生じた場合、コートレフェリーが法的問題に関する裁定を下す。その裁定に対して納得がいかない場合は、質疑権所有者が学連へ提訴することを認める(主審の事実問題に関する判定に対しての提訴は受け付けない)。尚、学連の裁定は最終的なものである。

★審判

- ・ コート内のジャッジに関しては全て主審が判断することになる。主審は事実問題に関する絶対的な決定権の所持者であり、主審が下した事実問題の最終判定は決して覆ることはない(特に、審判が選手の抗議やアピールによって事実問題の判定を覆すことは断じてあってはならない)。
- ・ 選手からコートレフェリーを呼ぶように要求された場合、主審はすぐにコートレフェリーを呼ぶのではなく、まず選手に対して「何故ですか」、「どうされましたか」と理由を尋ねて確認する必要がある。
- ・ コートレフェリーとの事実確認を行う際に、コートレフェリーからの質問に対してはっきりとした受け答えをする義務がある(特に二者択一で答えられるものは、中途半端又は曖昧に答えてはならない)。
- ・ 自信をもち、堂々とした態度でジャッジを行うこと。
- ・ コール、ハンドシグナル等、審判の仕方は「JTA テニスルールブック 2017」に記載してある方法で全校統一すること。
- ・ 副審を正式にラインアンパイアとする。

主審を出す順位

コート選択権所有校 ダブルス 第3, 1位(女子は第1位のみ) シングルス 第5, 3, 1位
相手校 ダブルス 第2位 シングルス 第6, 4, 2位(女子は第4, 2位のみ)

ラインアンパイアを出す順位は、主審を出す順位の逆とする。その他の線審はつけることが望ましい。線審のつけ方は、両校主将・主務の話し合いによって決める。

主審は原則途中で交代するような事はできない。

注：1 試合でもどちらかの大学がラインアンパイア(=副審)を出せない場合は、種目別に全ての試合を SCU で行うこと。

注：コートレフェリー及び質疑権所有者の話し合いにより線審を増やすことができる(選手が線審の増員を要求することはできない)。線審を増やすときは必ず偶数人数ずつ増やし、エンドチェンジ間、急を要する場合はゲーム間にコート内に入る。

・副審のレット

副審は、担当するラインのコールや事実決定に加え、以下の仕事を加える。

- ① 副審は、自分の担当するコートにボールやその他のものが入ってきた場合、「レット」または「ウェイトプロリーズ」のコールをかける。
- ② 副審は、サービスがネットした際のレットをかけることができる。

★ボールパーソン

- ・ ボールパーソンは原則として全試合に入るものとする。ボールパーソンをつけるかどうかは両校主将・主務の話し合いで決める。
- ・ ボールパーソンは試合を円滑に進めるための中立な存在であって、相手校のボールパーソンと争うためや、自校の選手を助けるためのものではない。従って、応援はできない。ウォーミングアップ時のアドバイスや声出しましてはならない(「ボール行きます」等の形式的なものならば可)。
- ・ 一方の大学が人数不足等の理由によりボールパーソンを出すことができない場合、もう一方の大学から出されたボールパーソンだけでもよいものとする。このとき一面あたりのボールパーソンの人数は問わないが、必ず担当した面全体のボールが拾える状況にする必要がある。
- ・ 悪質なボールパーソンがいるときは、コートレフェリーが判断してそのボールパーソンを退場させるか別の人間に交代させること。
- ・ ボールパーソンは関東学生テニス連盟に加盟した現役生、性別を同じものとする。

★ベンチコーチ

- ・ ベンチコーチに、監督、部長、OB、OG、異性の部員に加えて、コーチの参加も認める。ベンチコーチに入るのは、各大学の関係者とする。
- ・ ベンチコーチとして入る者はコーチ登録を行うことを義務づける(同性の現役部員は登録を行う必要はない)。
各大学、ベンチコーチに入る可能性がある者の名前をコーチ登録名簿に必要事項を明記したうえで試合開始前までに相手校に提出する事。
名簿に名前が書かれているもの以外がベンチコーチに入ることは認めない。
もし名簿に登録されていないものがベンチコーチをしていることが発覚した場合、ペナルティの対象となる。
一回目は登録してないものは即刻退場とし、チームに対して警告、二回目で対戦中の全試合のベンチコーチを強制退場とし、その後もベンチコーチを対戦中入れる事はできない。
※コーチ登録名簿については後ほどホームページにアップします。
- ・ 人数不足であっても、監督、部長、OB、OG、異性の部員をベンチコーチに入れることは構わない。
- ・ ベンチコーチは選手のウォーミングアップが始まる前までに入ること。(ウォーミングアップ開始後、最初のベンチコーチの交代のタイミングは、3ゲーム終了後のエンドチェンジ間です。2016/7/19 改訂)
- ・ エンドチェンジ間(各セット1ゲーム終了後、及びタイブレーク時のエンドチェンジを除く)、セットブレーク間、(両校の)MTO間、相手のトイレットブレーク間、又は試合が中断している間にベンチコーチは選手にコーチングや治療の手伝いをすることができる。ベンチコーチ以外の人は、選手にコーチングやアドバイスができない(外部からの伝命、メモ等による伝達もできない)。
- ・ ベンチコーチを入れることは各大学の権利であり、義務ではない。人数不足の際、審判やボールパーソン等がいない状態でベンチコーチが入ってはならない。
- ・ ベンチコーチは審判・コートレフェリーに対して質疑や抗議をしてはならない。
- ・ ベンチコーチの交代(退場)について、回数に制限はない。尚、ベンチコーチを交代(ベンチコーチが退場)してよいタイミングは、コーチングが許されているときのみとする。ベンチコーチの退場は自由とする。途中からベンチコーチに入る場合、もしくは交代する場合は相手校コートレフェリーと主審にその旨を伝えてから行うこととする。(2015年8月25日改訂)

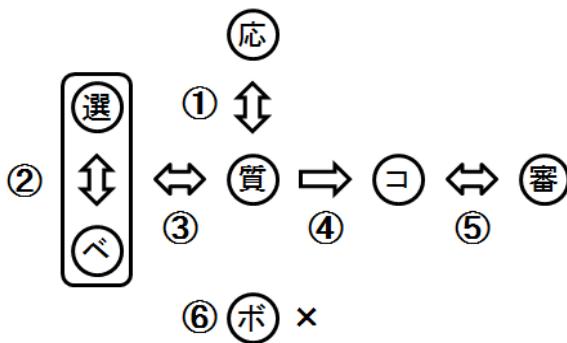
- ・ベンチコーチはテニスシューズを着用することを義務とする。また、インプレー中は決してコートの中に入らず、常にベンチに座っていること。
- ・ベンチコーチが暴言を吐いたり、認められないときにコーチングをしたりした際のペナルティーは、ベンチコーチに対する特殊なコードバイオレーションとして課され、1回目、2回目は警告、3回目で強制退場となる(当該試合にベンチコーチなし)。対戦中に受けた警告は蓄積され、次の対戦時には消える。1度退場させられたら、その者は当該対戦中の全試合に於いてベンチコーチには入れない。
- ・セットブレイク間、トイレットブレイク間含め、ベンチコーチとして試合コートに入っている時に、コート外にいる人などと話す行為は一切禁止とする。違反した場合はペナルティ。

★応援

- ・応援とは、試合を盛り上げ、自校のチームを勝利へ導く為のものであり、拍手と自チームへの声援のみとする。よって、侮辱、野次、罵声を発する、ジェスチャー・器具を用いての相手校(選手・審判等)の心理を攢乱させるような行動及びプレーの妨げになるような一切の行為を禁止する(フラッシュ撮影等)。
- ・応援はむやみに選手に近づいてはならない。不用意に動く応援は下記処分の対象となるので注意すること。
- ・学生スポーツ精神に反し、良識を欠くとみなされる応援には、コートレフェリーが判断して処分する。不正な応援(パルチザンクラウド)に対する処分は、1回目が当該校全体に対して警告、2回目が当該対戦に於ける当該校の拍手以外の応援の禁止、3回目は当該対戦における当該校の応援を禁止とする。(2015/05/24)となる。対戦中に受けた警告は蓄積され、次の対戦時には消える。
- ・拍手のみの場合、手拍子や体を使ったパフォーマンスを禁止する。
- ・応援するスペースはコート選択権を持つ大学が両校で平等になるように決定する。そして朝の打ち合わせの時点で確認する。

★ペナルティー・人数不足

- ・①タイムバイオレーション、②ヒンダランス(妨害)は主審がとり、③パルチザンクラウドはコートレフェリーがとる。④コードバイオレーションは主審とコートレフェリーの両方がとることができ、主審がとった場合はその旨をコートレフェリーに伝える必要がある。①、②は非累加制、③、④は累加制である(ダブルスとシングルスで加算され、その対戦中まで有効)。
- ・試合中に於ける選手(及びベンチコーチ)と主審及びコートレフェリー、又は応援の不必要的会話は全てコーチングとみなし、コードバイオレーションの対象となるので重々注意すること。



に対するコードバイオレーションも同様である。

人数不足の際、優先される順番は、①選手、②コートレフェリー、③質疑権所有者、④主審、⑤副審、⑥ボーラーパーソン、⑦ベンチコーチ、**応援**とする。

人数不足を理由に上記①～⑥よりも⑦ベンチコーチ、応援が優先されることがあってはならない。

上記①～⑥は試合を行っている大学硬式庭球部(男女別に考える)に所属している者のみが務めることができる
(但し、⑦のみは任意とし、部長・監督、OB・OG、異性の部員が担うことを認める)。

人数不足という理由で、主審・副審・ボーラー全てを入れなくてよいと解釈する大学がいるが、入れなくよいのは不足分だけである。各大学は都合のよい解釈をしないこと。

★使用コート

- ・ 使用可能コート面数が3面未満の場合は相手校、若しくは他のコートを手配して試合を行う。
- ・ 天候や試合進行状況に応じて、両校主将・主務の話し合いの上で使用面数を増やすことが望ましい。
- ・ 民間施設のテニスクラブ等で有料コートを借りたときは、必ず対戦校両校でキャンセル料を含め折半する。
- ・ コートの所在地を事前に確認すること。各校の責任である。
- ・ コート選択権所有校の大学テニスコート以外で試合を行う場合、コート選択権所有校のコートレフェリーは使用コートを必ず学連に報告すること。
- ・ 使用コートを当該校硬式庭球部で占有できる場合、全試合が終了するまで両校共会場内のコートでは練習してはならない。

注: コート選択権とは、「どこの場所で試合を行うかを選び、決めることのできる権利」である。必ずしも「自校の大学テニスコートで試合を行うことのできる権利」ではない。

★使用ボール

- ・ ボールは両校から供出するが、その方法は両校主将・主務の話し合いで決める。
- ・ 試合中のパンク・軟化・ロストについては主審が判断して処理する。

★試合開始時刻

- ・ 大学テニスコート所在地から考えて、始発電車・バスを利用しても試合開始時刻に間に合わない場合は、必ず試合予定日前に学連に連絡しその旨を伝えること。申し出の内容、及び時期が妥当だと学連が判断すれば、試合開始時刻の変更を認める。但しプラクティスの時間を確保する為の変更は行わない。
- ・ 止むを得ない事情で試合開始時刻を遅らせる場合、試合前のプラクティスは行わない。その際、両校主将・主務の話し合いの上、ウォーミングアップの時間を5分から10分にことができる。
- ・ 対戦する両校が同意を置いていても、学連の許可なしに勝手に時間の変更をしないこと。時間変更の必要がある場合は、必ず学連に連絡すること。
- ・ 中断試合になり翌日に延期になった場合は両校で話し合ってもらい、折り合いがつかない場合は学連が判断する。(2016/7/19 改訂)

★オーダー交換

- ・ 出場選手は、オーダー交換の際に試合の行えるウェアを着用した上で整列しなければならない(ウォームアッ

プ着用可)。オーダー交換時に出場選手が整列できていなかった場合、その選手は W.O.となる。

- ・開会式(ダブルスのオーダー交換時)のみ定刻になり次第、その他(シングルスのオーダー交換及び閉会式)は両校部員が全員整列し次第、式次第を開始する。
- ・例え試合当日が朝から雨天であっても、中止や待機等の指示が学連より出ていない限りは必ず定刻にオーダー交換を行わなければならない。
- ・交通機関による遅刻は状況により学連が判断し、処理する。
- ・オーダー交換時にオーダー用紙がコート内になかった場合は当該試合を没収とします。
- ・出場資格を満たしていない者が出場していたことが発覚した場合は、試合終了後でも当該対戦に於ける全試合が不戦敗となる。
- ・オーダー順位は、関東大学テニスリーグ規約第 12 項「オーダー規約」(本冊子 P 4)に基づく。
- ・オーダー順位の誤りが明らかになった場合、当該校はそのオーダーをオーダー規約に基づき、当日のオーダー用紙に記載されている選手の範囲内で相手校の要求通りに変えなければならない。これらの処置は質疑権所有者から質疑があった場合に学連がとる(質疑権所有者以外からの質疑は受け付けない)。
- ・オーダー用紙の様式は、関東学生テニス連盟(以後、当連盟)指定の用紙に毛筆又はペン書き(黒または青)とする。選手の名前はフルネームで書く。日時等数字を記入する箇所は漢数字でも算用数字でも可。正式大学名に於いて略字は不可とする(正式大学名は前以て確認しておくこと)。また、オーダー交換の際の封筒の有無は問わない。
- ・入替戦に於いても、自校が所属する部を記入する。
- ・訂正箇所には 2 重線を引き、部印がそれにかかるように押すことによって訂正を認める(修正液の使用は不可)。オーダー交換終了後の訂正は認めない。
- ・修正液の使用がみられたり、オーダー用紙が間違っていたり日付・正式大学名・部印が抜けていたりした等の場合には、学連が判断し、処理する。但し、誤字については各校の良識に任せる。(2016/7/19 改訂)
- ・オーダーに対しての質疑は、ダブルス・シングルスそれぞれの最初の試合のウォーミングアップが始まるまでとする。ウォーミングアップが始まった後の提訴は受け付けない。

★メディカルタイムアウト(MTO)

・プレーヤーは試合中の怪我や体調不良の治療のために、MTO をとることができる。治療には出場資格を有する者以外でも、1名が携わることを認める(トレーナー資格の有無は問わない)。この 1 名は MTO の度に違う者に替わってもよく、また、朝の主将・主務の打ち合わせに於いて提示する必要もない。つまり、MTO 時に選手の治療の手伝いができるのはベンチコーチと合わせて 2 人のみである。

・トレーナーが在籍しておらず、MTO に入るかどうかの診察を行えない場合、MTO に入るかどうかの判断は主審が行うこととする。

・エンドチェンジ間での 2 度の MTO について

JTA TENNIS RULE BOOK 2017 では

「同時に 2 か所以上に怪我を負った場合、あるいは、体調が悪くなつて同時に怪我をした場合は、レフェリーの許可を得れば、(同エンドチェンジ間で)2 回続けて MTO をとれる。」

と掲載されている。これに対して本リーグでレフェリーが当該事例に対して許可を出すことはない。つまり、本リーグでは 1 つのエンドチェンジ間で 1 度の MTO までしか取ることができない。(次のエンドチェンジで違う部位に対して MTO をとることはできる)

ただし、MTO の診断に関してはルール通り 1 回までとする。

★トイレットブレーク

- トイレには、相手校のコートレフェリーがついていく。
- トイレットブレークの余った時間は使うことができない。コートに戻り次第、すぐにプレーを再開すること。
- プレーヤーとベンチコーチが同時にトイレットブレークを取った場合、ベンチコーチはプレーヤーと話すことは出来ない。

★雨天の際の処置

- 試合前日又は当日の朝が雨天の場合、両校コートレフェリーはオーダー交換の 10 分前(試合開始時刻の 20 分前)にコート状態を見て、試合が可能か不可能かを判断する。不可能と判断した場合は必ずコート選択権所有校のコートレフェリーが学連に連絡すること。時間待ちすれば試合可能と判断した場合、学連の指示に従って改めて試合開始時刻を設定し直す。
- 何れの対戦も朝の段階で雨天中止となった場合にはオーダー交換は行わない。オーダー交換を行わないケースは 1 試合も行わずに中止となったときのみである。
- 雨天時は、常に学連の指示に伴って行動すること。試合の可否や中止及び延期は学連が最終決定するので、対戦校同士で勝手に決定しないこと。
- 順延になった際にはオーダー用紙の日付に気を付けること。
- 原則として順延となった試合は翌日に行うこと。

★日没・水没の際の処置

- 日没・水没による中断はコートレフェリーが判断する。中断するタイミングは第一にセットブレーク間、次に偶数ゲーム終了後、間に合わなければエンドチェンジ間やポイント間で止めること。
- 中断した時点で、必ずコート選択権所有校のコートレフェリーは途中経過を学連に報告すること。
- 中断試合の中断時刻及びサービスサイド、セット・ゲームカウント、ポイント等の記録、ボールの保管は、全て主審及び当該選手の責任とする。
- ナイターがある場合は、ナイターをつけるかどうかはコートレフェリーが判断する。
- 再開時刻もコートレフェリーがコート状態から判断して決める。
- 原則的に試合の打ち切りは認めない。どうしても試合を打ち切らなければならない特別な理由(日没・水没で全試合消化しきれない等)がある場合は、打ち切る前に必ずコート選択権所有校のコートレフェリーが学連に連絡すること。

主将・主務の打ち合わせ事項

- コートレフェリーの確認(委託人含む)
- 質疑権所有者の確認(委託人含む)
- 審判・ボールパーソンの出し方
- ナイターの有無

- ・ トイレの位置、トイレットブレークの時間設定
- ・ コーチング又はパルチザンクラウドの基準
- ・ ボール供出の仕方
- ・ 服装のチェック(ロゴについて等)
- ・ オーダー交換はどのコートで行うか
- ・ どの試合をどのコートで行うか
- ・ コート整備について
- ・ コートレフェリーの時計の確認(時報に合わせる)

※主将・主務の打ち合わせ事項はなるべく両校公平になるようにし、折り合いがつかなくなった場合の最終決定権はコート選択権所有校ではなく、学連にある。

※その他にも不安や気がついた点は朝の打ち合わせで話し合っておくとよい。その際必ずルールに基づくこと。ルール上問題ないか学連に確認すること。

また、試合中に両校主将・主務が話し合うことによって、朝の打ち合わせの内容に追加・変更することも可能である。

- ・ **主務の携帯電話所持**

対戦中は各大学の主務が電源を付けた状態で携帯電話所持を義務とする(ただし、選手やベンチコーチである場合は除く)。これに加え、コートレフェリー及び質疑件所有者の資格を持つものが携帯電話を対戦中に所持することが望ましい。

お問い合わせ先

対戦中の連絡・報告等は、以下の連絡先までお問い合わせ下さい。

大会レフェリー直通

070-6555-2438

関東学生テニス連盟事務所

03-5577-4940 又は FAX 03-5577-4942

また、対戦時以外でリーグ戦に関して何か御質問や御相談のある方は、リーグのメールアドレス(natuleague2017@gmail.com)までお問い合わせください。

※但し、試合の開始時間変更、中断、会場移動、中止、日程の順延等、緊急且つ当連盟の判断を要する必須連絡事項はメールではなく、極力お電話にて御連絡下さい。宜しくお願ひ致します。

コートレフェリーの報告方法

コート選択権所有校のコートレフェリーの方には、学連のホームページ上からメールフォームを利用してオーダー及び試合結果の報告を行って頂くことになります(非コート選択権所有校のコートレフェリーの方による報告は必要ありません)

メールフォーム御使用時のお願い

・何れの報告も内容、性別、部、ブロック(男子7部女子5部のみ)、対戦、コート選択権所有校名、対戦校名、送信者名、送信者電話番号、送信者メールアドレスを記入の上、お送り頂くことになります。結果の誤記を減らす為ですので、御了承下さい。

※必ず御自分の大学側からお書き下さい。向きをお間違えになつてないか、送信前に再度お確かめ下さい。

※漢字等のお間違いに御注意下さい。また、氏名は姓と名の間に全角スペース(空白)を入れ、フルネームで御記入下さい。

※結果は半角数字で「- (ハイフン)」を入れず、セットは半角スペース(空白)で区切つて頂ければ幸いです。尚、タイブレークの試合があった場合、結果入力の際にタイブレークのスコア(カッコの中身)をお忘れにならないようお気を付け下さい。

① ダブルスのオーダー交換終了後すぐに、自校と相手校のダブルスのオーダーを報告して下さい。

例 : D1 中元将雄・徳間翼 対 小倉拓馬・岡本佑
D2 松沢祐・藤井新 対 西野入大気・富川昂
D3 高良伊久磨・行徳陽介 対 森俊平・寺田好秀

※シングルスの項目は空欄のままで構いません。

② ダブルスが終了致しましたら、シングルスのオーダー交換終了後、ダブルスの結果と合わせて自校と相手校のシングルスのオーダーを報告して下さい。

例 : D1 64,67(5),76(9)
D2 26,16
D3 60,60
S1 中元将雄 対 小倉拓馬
S2 徳間翼 対 岡本佑
S3 藤井新 対 富川昂
S4 松沢祐 対 西野入大気
S5 行徳陽介 対 寺田好秀
S6 高良伊久磨 対 森俊平

③ シングルスも終わり、全試合が終了致しましたら、その対戦のダブルス、シングルスを合わせた最終結果を送信して下さい(ダブルスの結果を再度送信することになりますが、確認の為ですので御手数ですが宜しくお願い致します)。

例 : D1 64,67(5),76(9)
D2 26,16
D3 60,60
S1 63,64
S2 26,26
S3 26,06
S4 26,36
S5 60,60
S6 30,RET

上記の結果から、ダブルス 2-1、シングルス 3-3、計 5-4 で〇〇大学(勝利校名)が勝利致しました。

※このメールフォームより御報告内容が正しく送信されると、送信元に自動返信メールが届きます。返信メールが届かない場合は正常に送信が完了できていない恐れがあるので、その際は御報告内容を再送して下さい。